

授業概要

認知心理学は、心の働きを科学的に明らかにしようとする心理学の分野である。認知心理学Ⅱでは、情報処理アプローチを中心に記憶、思考、認知と感情といった認知心理学の幅広い領域に関して、それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルを紹介する。授業では、情報の選択（注意）、ワーキングメモリ、長期記憶、知識の表象、問題解決、身体化された認知などについて、楽しく実感できるように実例をあげながら、認知神経科学を含めた人の情報処理について解説してゆく。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	認知心理学について
第3回	認知神経科学について：認知の神経基盤
第4回	身体化された認知（1）：判断、感情
第5回	身体化された認知（2）：印象、交渉
第6回	認知と感情（1）：感情と認知の相互作用
第7回	認知と感情（2）：感情認知のプロセスとルート
第8回	注意と意識：注意の理論、選択的聴取、変化の見落とし
第9回	記憶（1）：感覚記憶、ワーキングメモリ
第10回	記憶（2）：長期記憶；潜在記憶、顕在記憶
第11回	記憶（3）：日常記憶：再構成的記憶、目撃者の証言
第12回	授業内試験と解説等（学習成果を測定）
第13回	知識の表象：意味のネットワークと活性化拡散、スキーマ
第14回	意思決定と問題解決：問題解決の方略
第15回	推論：演繹的推論、帰納的推論、ヒューリスティック、アルゴリズム
第16回	筆記試験あるいはレポート

到達目標

認知心理学にける基礎的な知識を学び、認知心理学の研究方法を理解する。日常生活の身近な問題に習得した認知心理学的手法を適用する。

履修上の注意

遅刻・欠席はしないこと。授業での質問や討論に積極的に参加すること。認知の働きについて、積極的に関連図書を調べること。

予習復習

授業の進捗状況に合わせて配布資料などを参考に予習復習を行うこと。授業中に質問したり、意見を求めたりして、予習復習の確認をおこなうことがある。

評価方法

筆記試験あるいはレポートの内容を基本とし、出席状況、授業中の質問に対する解答、討論への参加度を考慮して評価する。

テキスト

資料を配布するので、特にテキストは指定しない。参考書は適宜授業で紹介する。